

### 札幌「写真都市」宣言。

撮る・見る・語る・買う・飾る。 写真と、札幌と、もっとつながる「写真の祭り」

2018年10月、札幌の新たなランドマークとして北1条西1丁目に街びらきした「さっぽろ創成スクエア」。テレビ局・新聞社を含むオフィスと並ぶもうひとつの柱として、この街の文化・芸術の核となる3つの機能を持った複合施設「札幌市民交流プラザ」が開設された。

三面舞台を備えオペラの上演にも対応した本市最大のホール「札幌文化芸術劇場(hitaru)」、ビジネス、生活、文化・芸術の資料に特化した新しいスタイルの図書館「札幌市図書・情報館」、そして札幌の文化・芸術資産と人をつなぐアートセンター「札幌文化芸術交流センター(SCARTS)」を内包するこの施設の開館を記念し、「SCARTS」のオープニングシリーズとして共同開催する企画が公募された。

2015年、札幌の写真文化のさらなる向上と対外的発信を目的に始まった写真フェスティバル[SapporoPhoto]は、その折々の時代を記録しつつ、プロからアマチュア、そして市民を問わず多くの人々の身近にある写真というメディアの特性に注目し、そして、開拓期以来この街と人々が記録し続けてきた写真を文化資産と捉え、市民参加型の多彩なプログラムを展開してきた。

4回目の開催にあたり、札幌の新しい文化・芸術の拠点として誕生する「SCARTS」のオープニングを飾るとともに、同施設を活用した写真文化の発信のロールモデルを築くことはできないだろうか…。北海道の写真家で作るNPO法人"THE NORTH FINDER"はそう考え、この公募事業に応募し、採択された。

[SapporoPhoto 2018]は2018年12月1日からの10日間にわたり、「SCARTS」の2つのフロア全域を会場に開催された。













た2018年。ここ・札幌に首府を置くと定められてから、197万人が暮らす都 市へと発展してきた姿の多くは、この街に生き、あるいは訪れた一人一人の カメラによって記録されてきた。

[SapporoPhoto]がその開始以来テーマのひとつとしているのは、都市 建設の歴史を写真で記録してきた世界にも稀有な大都市・札幌の姿を浮 かび上がらせること。そこで市民の皆さんや札幌を訪れる皆さんに、この街 のある一日の姿を写真に撮っていただき、それらを時系列に展示して、 2018年の"今"の札幌を記録しようと考えた。

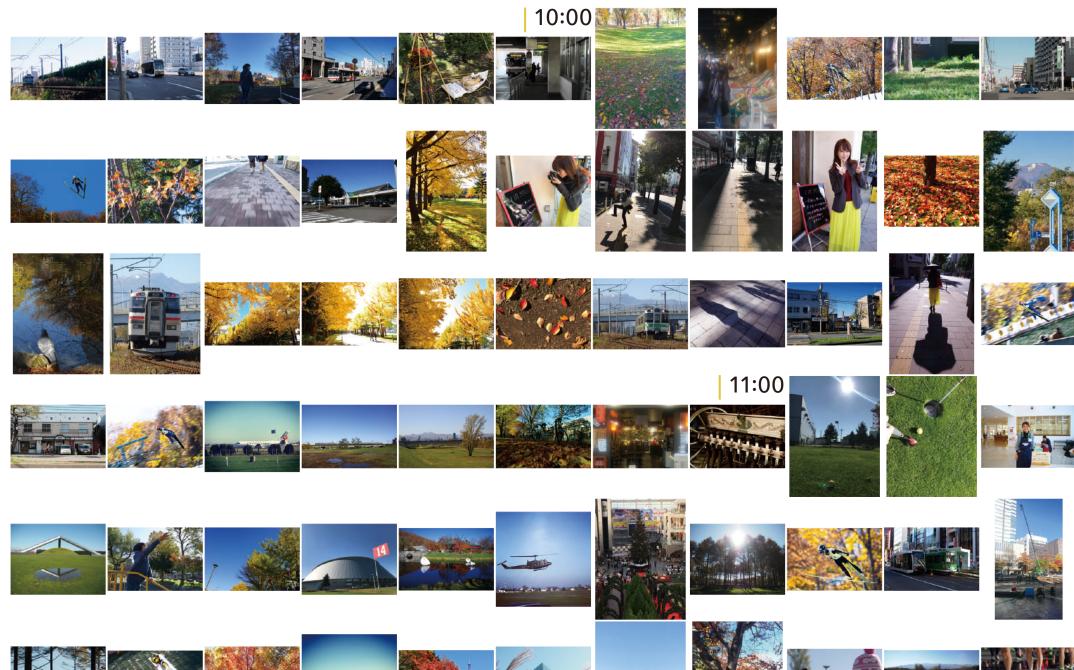
11月3日(土・文化の日)、午前0時から23時59分までの24時間、札幌市全

ただいた。118名の参加者から寄せられた394点の内200点を選び、撮影 場所・メッセージとともに展示した他、応募全作品をモニターでスライド ショーにし、また[SapporoPhoto]ウェブサイト上に掲載した。

もちろんこれだけで札幌の一日を撮り切れたとは言い切れないが、それ でも、ここに集まった一枚一枚の写真から、一人一人の札幌への思い、そし て愛すべき日常が、ありありと伝わってくる。

明くる年には元号「平成」が終わりを迎えることが決まった2018年。新 しい時代、この街はどう変わっていくのだろうか。いつの日にかこの写真を 通じて、2018年の札幌はこんな街だったと伝えられる時がきっと来る。

2018.11.3 00:00 01:00 02:00 03:00 04:00 ▼04:42 最低気温3.9°C 05:00 06:00 ▼ 06:11 日の出 07:00 08:00 09:00



















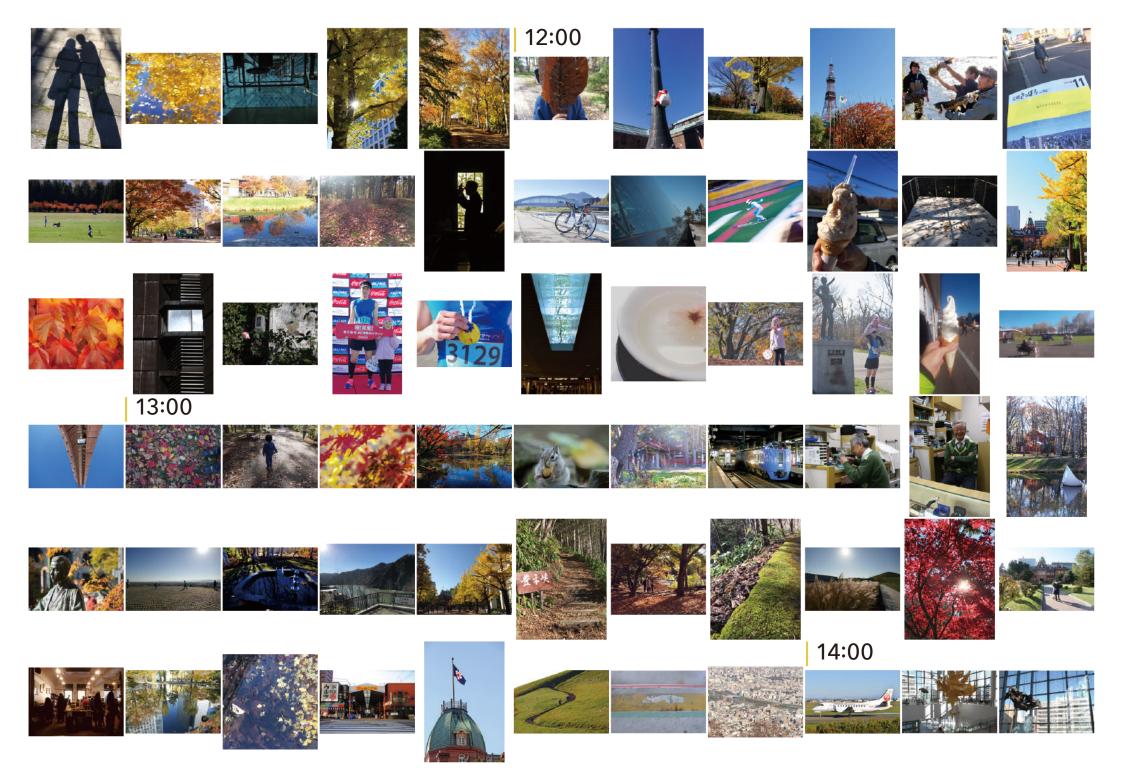


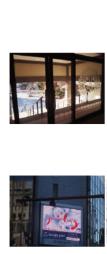






























































































































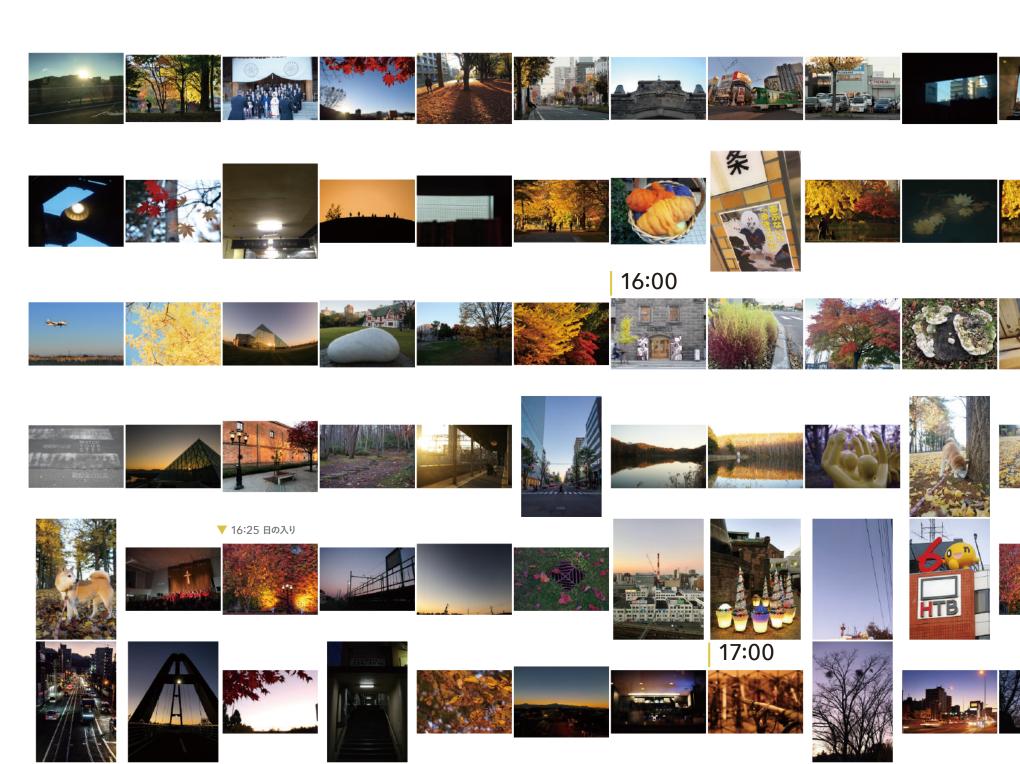


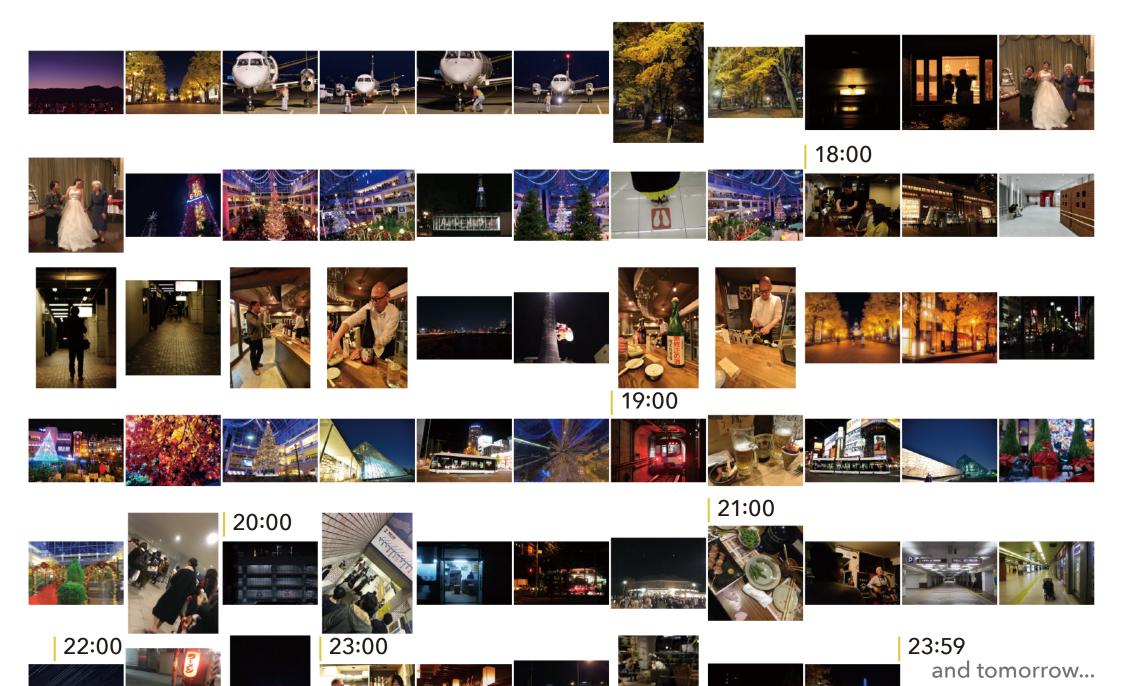












●[SapporoPhoto]ウェブサイトで、全作品の撮影地・撮影者名・コメントがご覧いただけます。



















- ●「写真の日」記念写真展2018
- 「「農業文化を支える人々」写真展-土と共に-」<札幌特別編成版> 「農業女子に会いたい」山岸伸&舞川あいく / 「『農』 は人を癒す」 橋本紘二 / 「田園ドリーム2018」 MOTOKO / 「撮れたて野菜」 網野文絵
- ●1000人の写真展「わたしのこの一枚」<北海道関係作品>



後援/外務省、環境省、文化庁





### 基調講演/シンポジウムでの発言から

### 基調講演

1987年に始まった「東川町国際写真フェスティバル」は、日本の本格的な写真フェスティバルの先駆け。地域の人々をいかに巻き込むかが成功の鍵となると思うが、町を挙げての写真文化への取り組みでそれを実現できました。

2014年から始まった「KYOTOGRAPHIE」(キョウトグラフィー)は京都在住の2人が立ち上げ、"京都らしさ"の訴求力を生かして、町家や寺社のみならず市場や工場といった多彩な空間を会場にし、50ヶ所以上のサテライト展示も充実しています。

「塩竈フォトフェスティバル」は地元出身の写真家・平間至さんらが立ち上げた手作りのフェスでありながらとてもしっかりしたプログラム。震災復興への取り組みとともに音楽などジャンルを超えた融合も行っています。

「倉敷フォトミュラルf」は商店街に全国公募で選ばれた作品を大型バナーで掲出。写真で町の景観がガラッと変わる活動を20年近く続けています。高校生や親子向けのワークショップも開催。そして運営を学生が中心に担い、大変うまくいっています。

各地のフェスティバルにはそれぞれの特徴がありますが、世界では約7万人を集める「PARIS PHOTO」、アジアでも「香港国際写真フェスティバル」があります。 写真を通じた文化交流がこれから必要になってきます。内向きだけではない外側に向けた目を持つことが大切です。(飯沢耕太郎)

### アーカイブを開いていかなければ。(飯沢)

歴史写真を活用するには、まずはインターネットで、サムネイルよりもうちょっと大きなサイズで見たい。そして使いやすい値段で、出版物や展覧会などで人の目に触れるチャンスを増やしていきたい。アーカイブをどうやって開いていくかということを考えなければならない。(飯沢)アーカイブを開くという意味で、私たちには「北一条さっぽろ歴史写真館」があるので、これからもより活用していきたい。(中村)

写真で地域を元気にしようという活動には大きな意義がある。 そうした活動をする方は他にも多いのだろうか。(中村健太)

東日本大震災がその一つのきっかけではないか。流された家から写真を救出し持ち 主を探して届ける活動も自然発生的に生まれた。作家が現地に長期滞在し、地域の 人たちと作ったプロジェクトが全国に広がり注目されている。(飯沢)

「東京写真月間」のMOTOKOさんも地域とのつながりの中で企業とも組んだプロジェクトを立ち上げて今回の展示に結びつけていった。(尾畑)



### これからの[SapporoPhoto]の可能性とは。(中村)

札幌でもいろんな場所で同時にやることが必要。やはり顔になる 展覧会やイベントをどういう形で作るかが大切。手弁当では限界 がある。メインスポンサーをつけること。プロ写真家とともにどう やってボランティアなどのスタッフを広げていくか。(飯沢)

地域型の写真フェスティバルをいかに外に向けていくかが大きな課題。(飯沢耕太郎)

シンポジウム

「東京写真月間」では地域の写真文化をテーマに東川町の海外作家コレクションや 山口県周南市の「林忠彦賞」、山形県酒田市の「土門拳文化賞」、神奈川県相模原 市の「フォトシティさがみはら」を取り上げ、また、バングラデシュ・モンゴル・カンボジアな どこれまで我が国でなかなか紹介されていない海外の作家、延べ260人の作品を 展示してきた。(尾畑)

札幌で海外交流を作るとするならばロシアやアラスカのような北方文化圏のつながりができるのでは。各地で同じことをやっても仕方がないので特徴を作ることが大事。(飯沢)

歴史写真を収集しつつ活用することは 難しいが、それがメッセージともなる。(尾畑正光)

これから先写真をどう歴史的遺産として保存していくか、札幌も考えていかなければならない。データもだが、「もの」の保存が一番の問題。そして、ただ整理して見せるだけでなくどうキュレーションするかも重要。「展覧会パッケージ」のような形を作って、会場さえ決まれば展示ができ巡回できる形を作ってほしい。(飯沢)





# ポートフォリオレビュー

■ 1階 SCARTSモール 12月2日(日)



東京・恵比寿にある写真集食堂「めぐたま」で開催されているポートフォリオレビューの[SapporoPhoto]出張版として、今年も飯沢耕太郎さんをレビュアーに迎えて開催した。「思い切って自分のやりたいことを表現している作品を期待したい」という飯沢さんの呼びかけに、札幌・北海道で創作活動を続ける、またこれから活動の幅を広げたい作家に数多くご参加いただくことができた。

北海道は豊かな被写体と撮影対象に恵まれているものの、作家にとっては多くの観客の目に触れる発表の場、そして客観的で適切な指摘・指導を受けられる機会が少ない。参加者は自らのポートフォリオを手に、飯沢さんから今後の活動の指針となるアドバイスを受けていた。

THE NORTH FINDER 10周年記念写真展 デジタル展示

### 北海道と冬~そこに住まう者の視点~

■ 1階 SCARTSモール 協力/ソニーストア 札幌



[SapporoPhoto]を主催している"THE NORTH FINDER"の設立10周年を記念し、2017年11月に東京・新宿で開催した写真展「北海道と冬~そこに住まう者の視点~」は、ひとりの作家として、そして生活者としての視点で北海道の冬を見つめた作品を道外の皆さまにご覧いただく機会となった。

今回はソニーの65インチ4K有機ELテレビ「BRAVIA A9F」を使用したデジタル展示で、札幌の皆さまに作品を初めてお披露目した。美しく鮮明な画面で写真を見る体験をお楽しみいただくとともに、作家にとっても写真表現の新たな可能性を感じる経験となった。

# 「子ども写真教室」 「さぽーとさっぽろ写真教室」 作品展

- 協力/株式会社ニコンイメージングジャパン さぽーとさっぽろ(公益財団法人札幌市中小企業共済センター

























































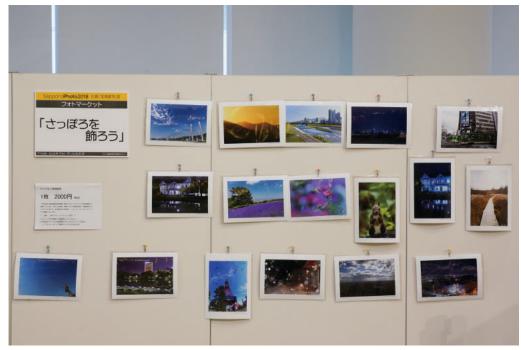
未来を担う子ども達に写真の魅力を知ってもらいたい一。

"THE NORTH FINDER"はこのような思いのもと、地域の小学生やご家 族を対象に毎年写真教室を開催している。これまでには暗室でのフィルム 現像やプリントを体験してもらったり、旧永山邸・サッポロファクトリー・大 通公園などでの撮影や、家族写真をより楽しく、美しく撮るためのレク チャーを開催してきた。写真を「表現の手段」として、楽しく学びながら体 感してもらおうということを共通した目標としている。

2018年も最新のデジタル一眼レフカメラに触れながら、身近な札幌の 風景をただ単に撮るだけではなく、自分の視点を自分が見せたい方法で 切り取り、表現してもらった。現代の子ども達にとって写真はとても身近な メディアである。その写真を、プロのアドバイス、自分の表現を形にできる カメラ、そして何より感性を大切に作り上げていく体験は、きっと将来に大 きな実を結び、創造都市、「写真都市」札幌を担う力になるであろう。

## フォトマーケット さっぽろを飾ろう

■ 1階 SCARTSモール



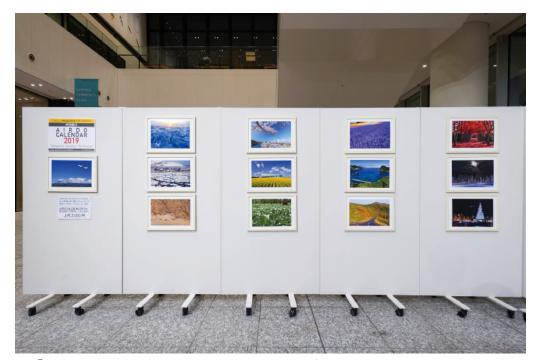
飾ることもまた、写真の楽しみ方のひとつ。日本では海外に比べて普及していない「気に入った写真を買い、飾る」という文化・楽しみ方を気軽に体験してもらうべく、手頃なサイズと価格設定で販売を行った。地元写真家が撮った札幌のさまざまな光景を選び、街なかの見慣れた景色から、"これも札幌?"と感じる光景まで、多彩な作品を用意した。初の試みで販売数が制作費用を上回るまでには至らなかったものの、この経験を活かし、写真を選んで飾る楽しみの提案を続けたい。なお、収益を北海道胆振東部地震のチャリティに充てさせていただく目論見であったが、前述のとおり収益は発生しなかったため、別途、会場に隣接して本社を持つ北海道テレビ放送(HTB)の「onちゃん募金」を通じて寄付をさせていただいた。

### 特別展示

### **AIRDO CALENDER 2019**

**Photographic Exhibition "The Original"** 

■ 1階 SCARTSモール



「写真を通じて北海道を発信する」ことを理念とする"THE NORTH FINDER"は、志を同じくする企業・団体とのコラボレーションを行っている。その一環として2016年から航空会社AIRDOのカレンダーに会員写真家が作品を提供している。

2019年版カレンダーの発行と[SapporoPhoto]の開催時期が重なったのを機会に、全道各地で撮影された12ヶ月の光景の原画写真を展示した。色彩豊かな北の大地は、国内外を問わず多くの人々を魅了している。ますます増加する来道観光客のみならず、地元の人々にとっても、この美しい自然がいつまでも魅力あふれたものであり続けるよう、私たちはこれからも写真の力で北海道を応援していきたいと願い、活動の幅を広げていこうと考えている。









### 札幌の「記録」を次世代へ -ごあいさつに代えて-

厳しくも豊かな自然とそこに育まれる文化、北海道という地域に恩恵を受けて活動している写真家として、写真の力で 恩返しをしようと集まったのが私たちNPO法人北海道を発信する写真家ネットワークです。

「北海道の多様な魅力を国内外へ発信すること」「地域の写真文化発展へ貢献すること」をふたつの大きな柱として様々な事業活動を行っています。

当NPOが主催し、2015年から様々な企画を開催している [SapporoPhoto] では、札幌は都市形成の歴史と日本の写真の歴史がリンクする希有な都市であることにちなみ、芸術表現としてだけではなく「記録」という写真特有の要素を重視したプログラムを構成しています。

これらを何かのきっかけに、イベントに参加された方・この冊子で触れられた方の糧となり、地域に豊かな写真文化が育まれ次世代へ紡がれてゆくことが私たちの願いです。

最後に、当事業にご協力いただきました全ての皆様にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク 理事長 **中村 健太** 

#### 開催概要

2018年12月1日(土)~10日(月) 10:00~20:00 札幌文化芸術交流センター(SCARTS) 札幌市中央区北1条西1丁目 1階 SCARTSコート・モール/2階 SCARTSスタジオ・モール

#### 主催

NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク 札幌文化芸術交流センター(SCARTS)

#### 協力

「東京写真月間2018」実行委員会(公益社団法人日本写真協会) 株式会社ニコンイメージングジャパン ソニーストア 札幌 さぽーとさっぽろ(公益財団法人札幌市中小企業共済センター)

札幌市写真文化振興事業 札幌文化芸術交流センター(SCARTS) オープニングシリーズ公募企画事業

### SapporoPhoto 2018 札幌 「写真都市」 祭 レポートブック

撮影・テキスト

ウリュウ ユウキ・中村 健太

#### 記録映像撮影

干場 忠夫

#### 本誌デザイン

ウリュウ ユウキ(クリエイティブワークス19761012) (全て会員)

#### 発行

#### THE NORTH FINDER

NPO法人北海道を発信する写真家ネットワーク 060-0807 札幌市北区北7条西1丁目1-2 SE札幌ビル13階 (株)イメージナビ内 https://northfinder.jp/ info@northfinder.jp

### 2019年3月発行

本誌掲載の作品写真の著作権は、各撮影者にあります。 本誌内容の無断転載をお断りいたします。

© 2019

